

霊水と共に

発行 法華寺
No.25
2024.3
河南町加納 247
☎0721933023

まいてら法華寺

検索

寄り添いの寺 法華寺

検索

四月開山忌法要です

国内外では、「戦争」、「災害」、「貧困」など、世界のいたるところで、様々な問題が継続しています。我々一人ひとりが、できる事は何でしょうか？當山法要では、毎回、諸霊の供養と共に、社会の安寧をお祈りしております。日蓮大聖人も「国土・人民あつてのお題目」（不二のお題目）と述べられています。

門祖・日隆上人は、日蓮大聖人のご入滅後、約百年が過ぎた頃、お生まれになりました。大聖人から九代目のお弟子になります。そして、日蓮大聖人の教えの根本を探究し、その結果、法華経の最も大切な部分を「本門八品・上行所傳」と表現されました。つまり、「悟りを開いたお釈迦様・仏陀は、時空を越えて、永遠に、存在しておられる」ということを表わされているのです。我々は常に、永遠の存在である仏さまに見守られているということです。

三光天子様 修復と御開帳

昨年度より、皆様にご協力いただきながら、當山の番神堂の「三十番神」様・「鬼子母神」様の修復を進めてまいりましたが、この開山忌では、新たに「三光天子」様の修復が完成間近です。四月開山忌では、本堂での御開帳を予定しております。是非ご参拝下さい。

「三光天子」様とは、太陽、月、星の人格化で、「法華経序品」に登場します。お釈迦様の法華経説法の場に現れ、法華経を信じ修行する者の守護を誓われた神様です。日蓮大聖人の御言葉に、『天の三光に身を温め、地の五穀にたましいを養う』とあり、天の太陽・月・星、そして五穀の主食が無ければ、我々の生命は存在しないこと、それ故にその「恵み」に感謝しなければならぬことを述べておられます。



三光天子さまと日蓮大聖人

日蓮大聖人は、何度も法難に遭われ、そのお命が潰える寸前のことも度々ありました（大難四箇度、小難数知れ給わず）。その中で、有名なものに、「龍ノ口法難」があります。鎌倉、由比ヶ浜での斬首刑において、まさに今、刃が振り下ろされようとした瞬間に、東の空から「大きな光」が飛来して、人々が怖れおののき、処刑が中断されたのです。日蓮大聖人は、後に「月天子様が、私を救いに来てくださったのである」と述べておられます。

また、佐渡流罪の前に、相模国（神奈川県）に止め置かれた折も、天の星が降りてきて、大聖人にその姿を現したという奇瑞があったと、書き残されています（依智の星下り）。これらの奇跡から、日蓮大聖人は、月天子・日天子・明星天子の「三光天子」様を、深く信仰されるようになったのでしよう。

「龍ノ口法難図」



「星下り奇瑞図」

